

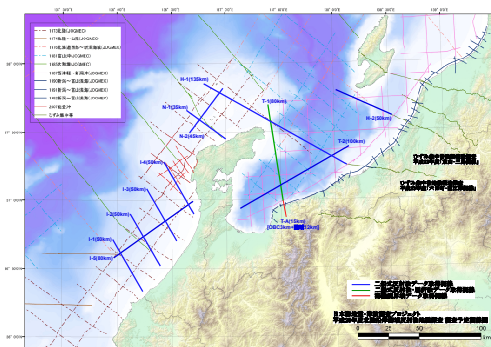
2-3 沿岸海域および海陸統合構造調査

東京大学地震研究所

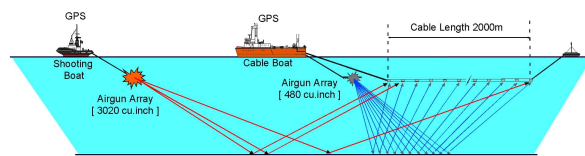
1

(2)③沿岸海域および海陸統合構造調査

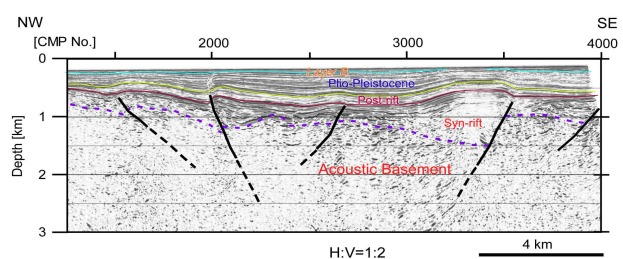
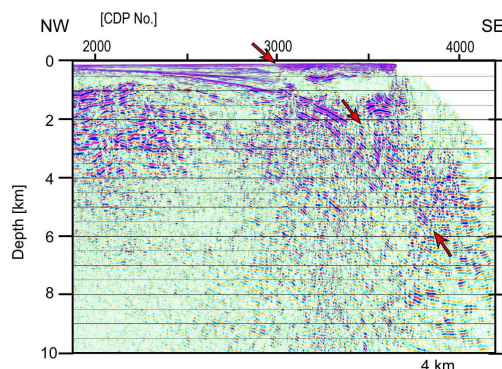
沿岸海域調査の概要



平成25年度の測線案



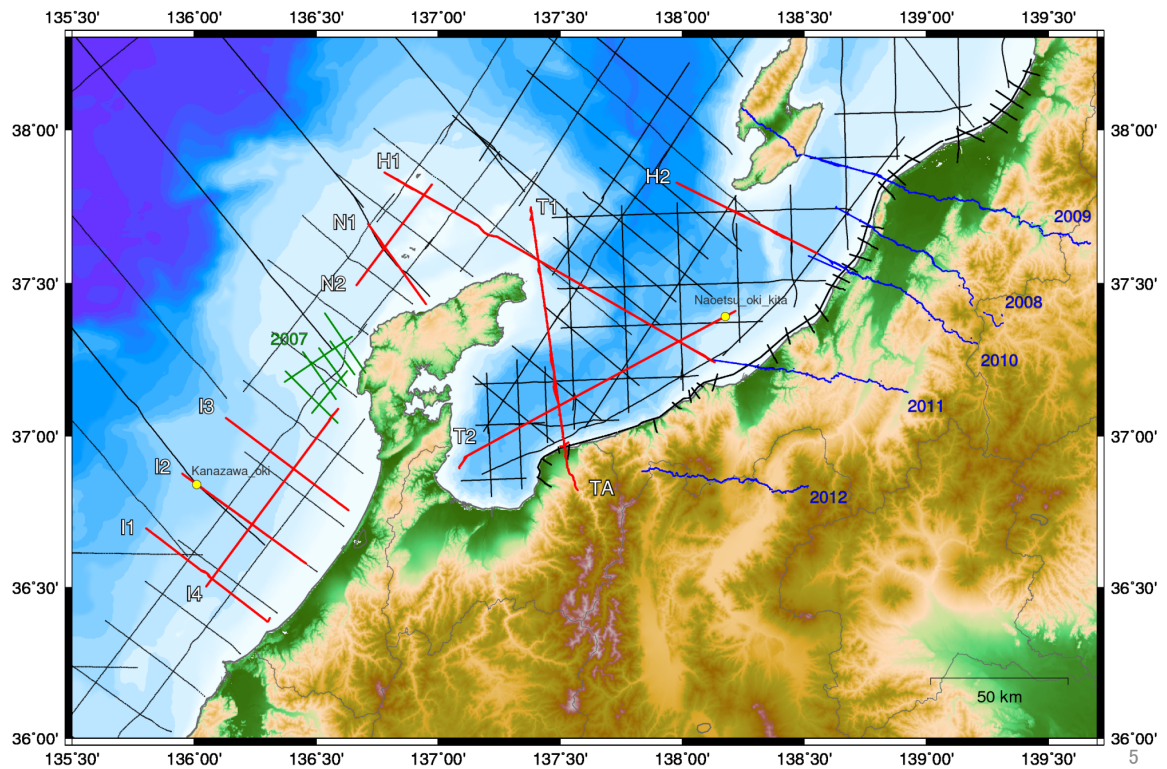
二船式による長大オフセットでのデータ取得



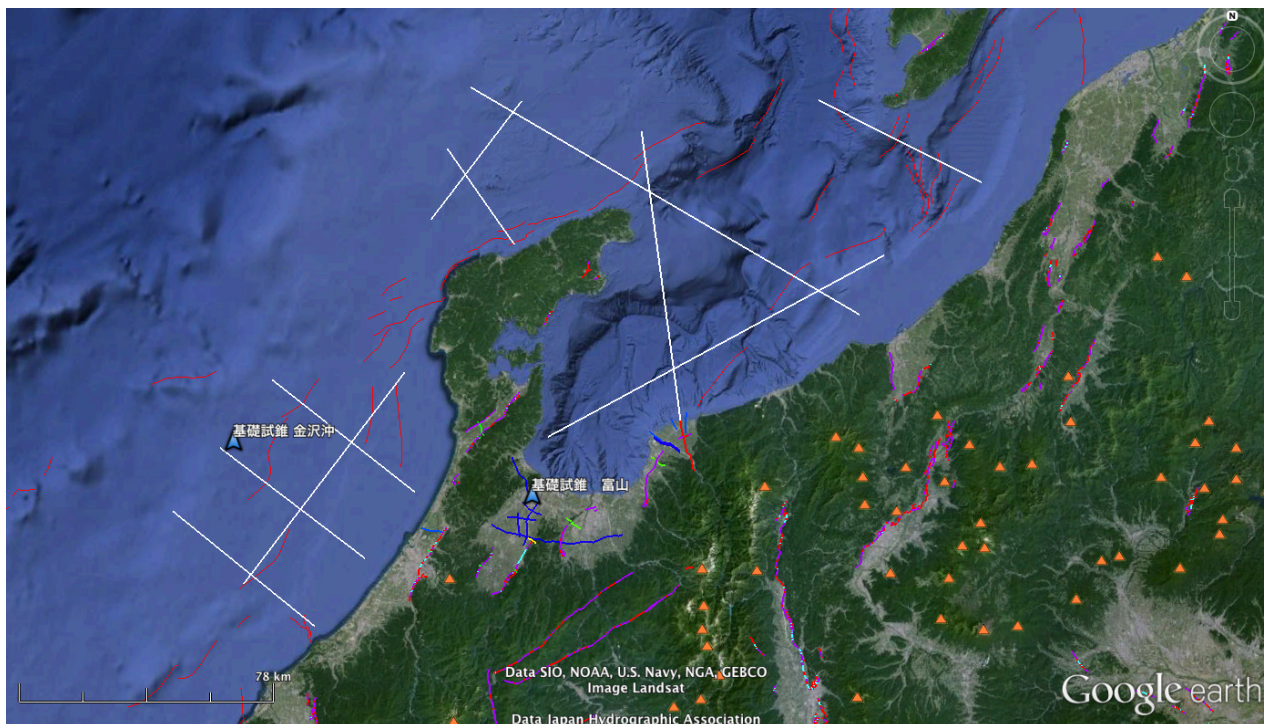
反射法地震探査による詳細な断層形状の把握

2

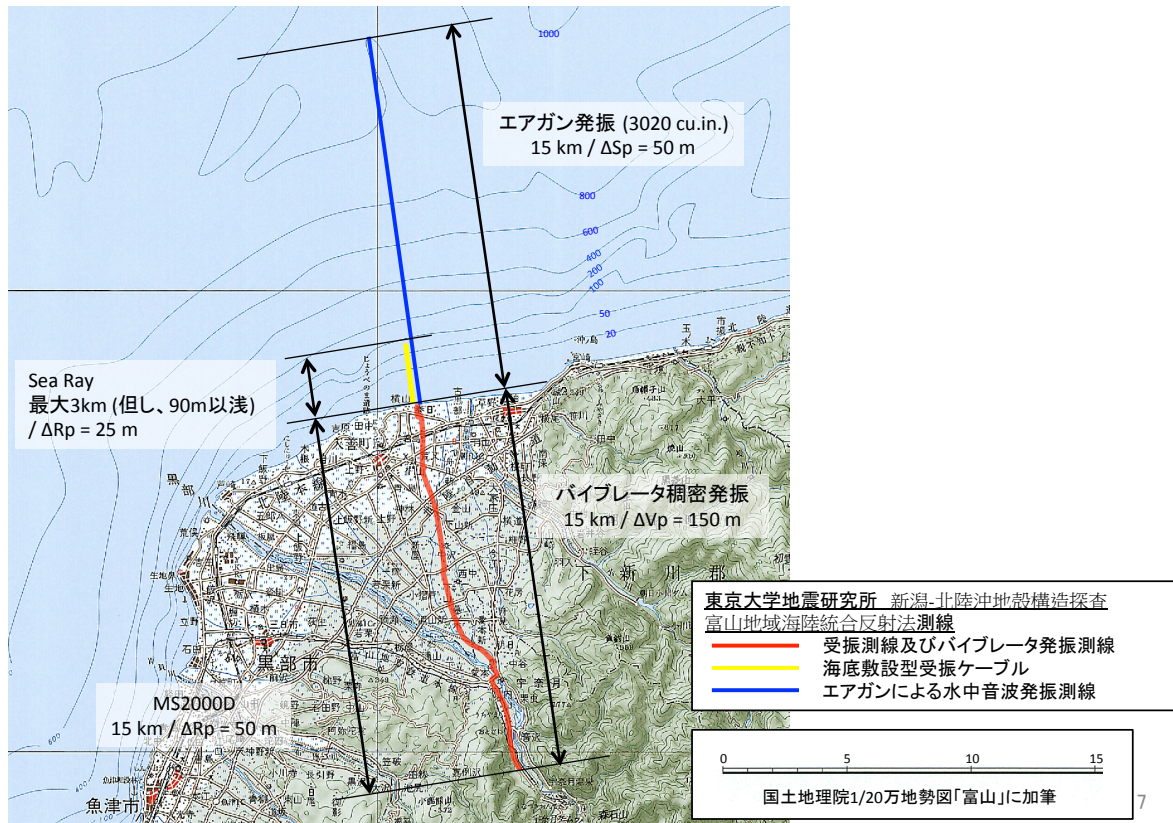
調査測線図(既存測線+2013年調査)



周辺の活構造との比較



富山地域海陸統合反射法調査

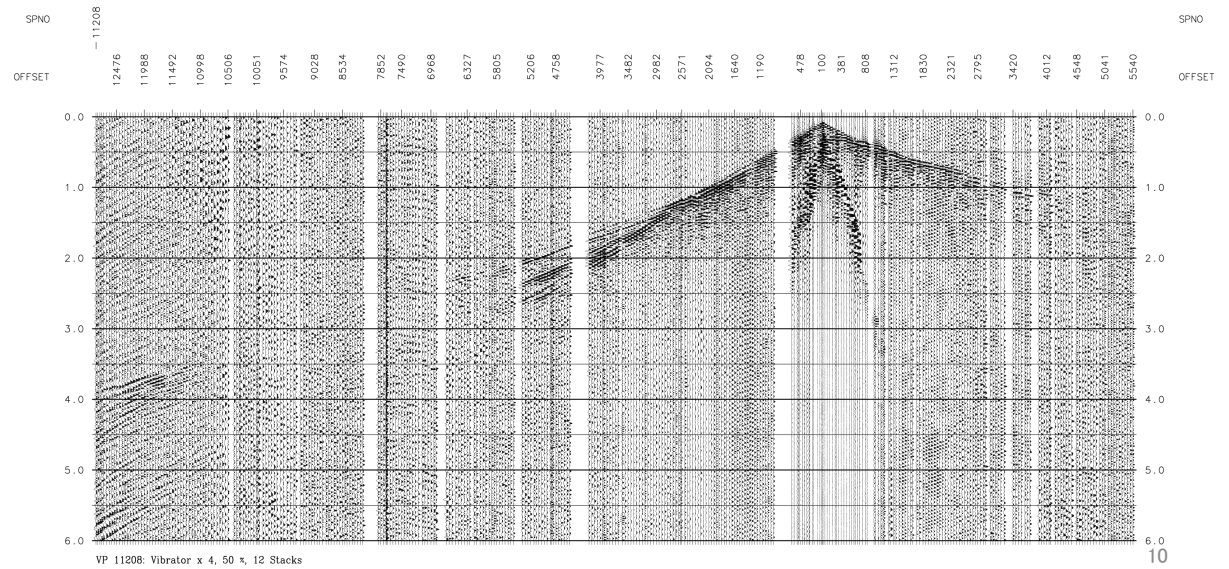
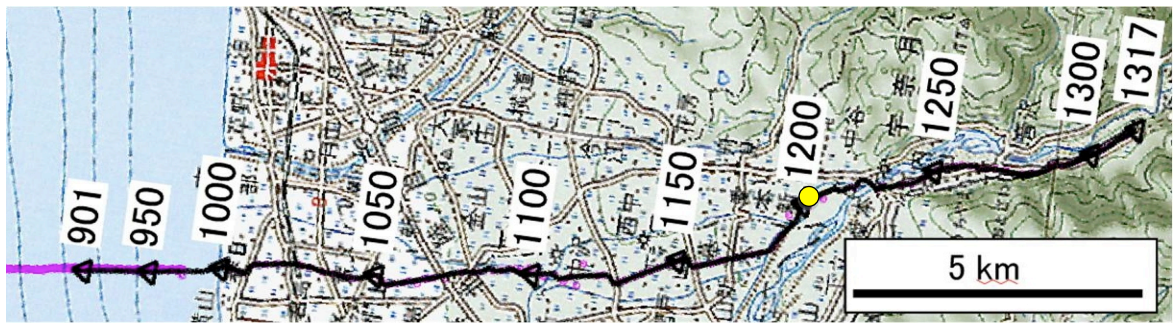
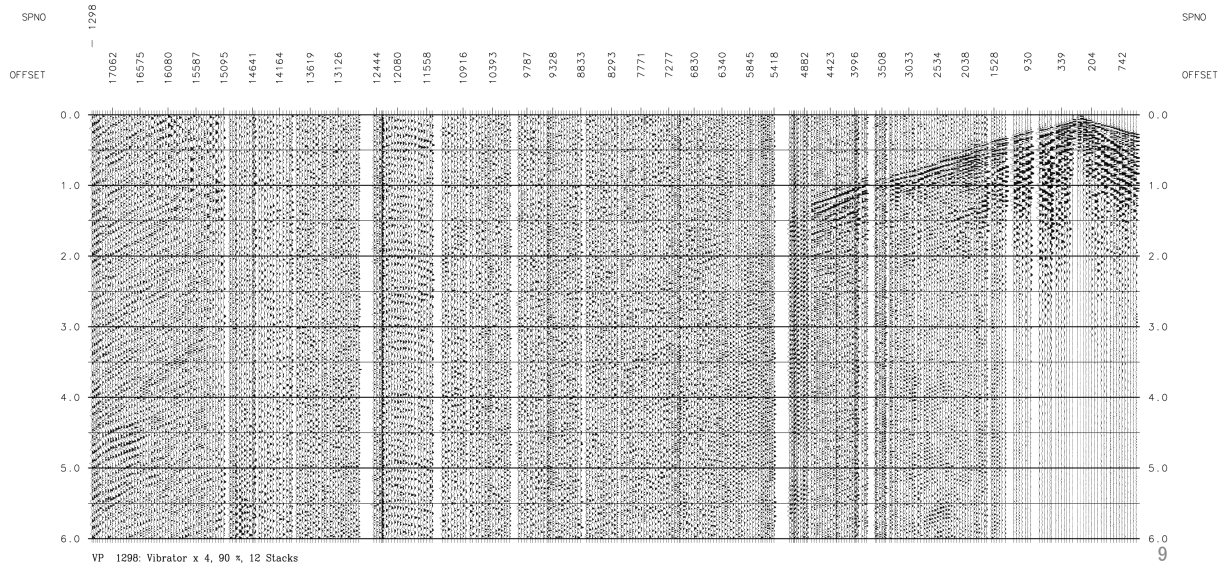
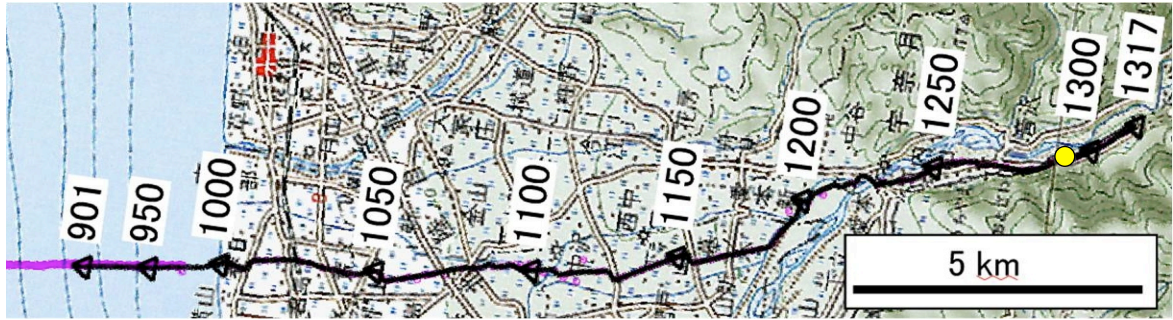


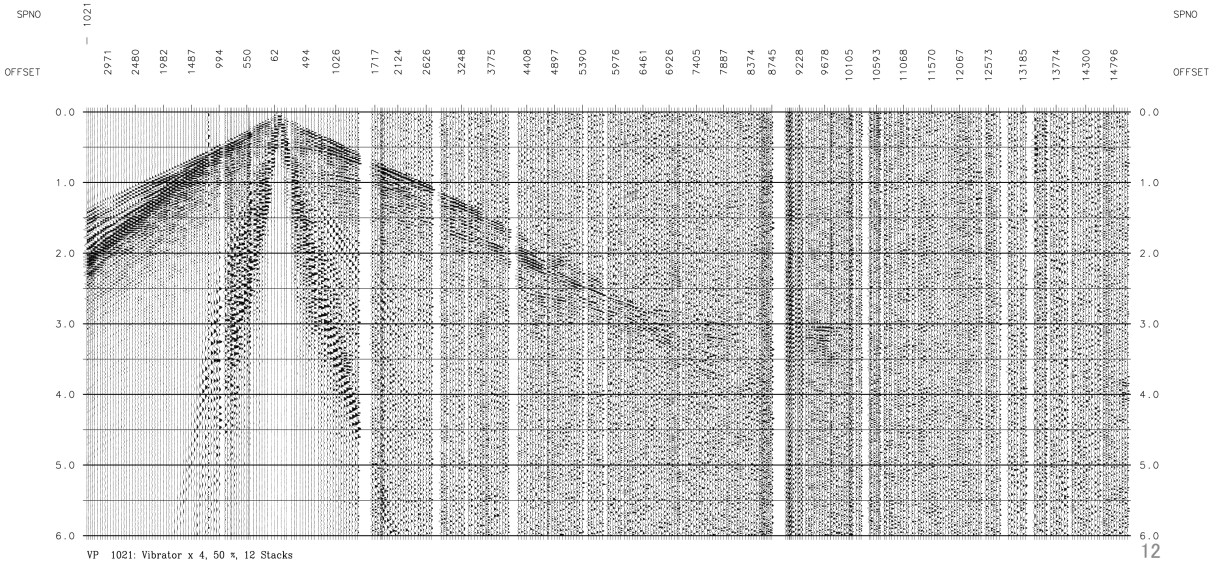
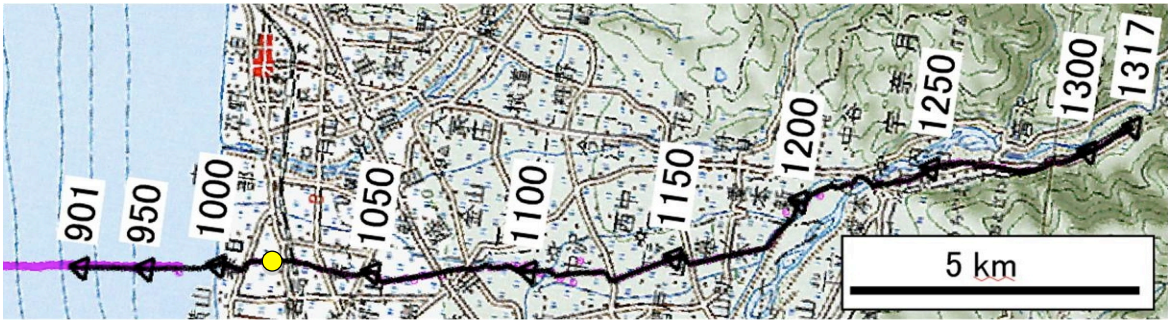
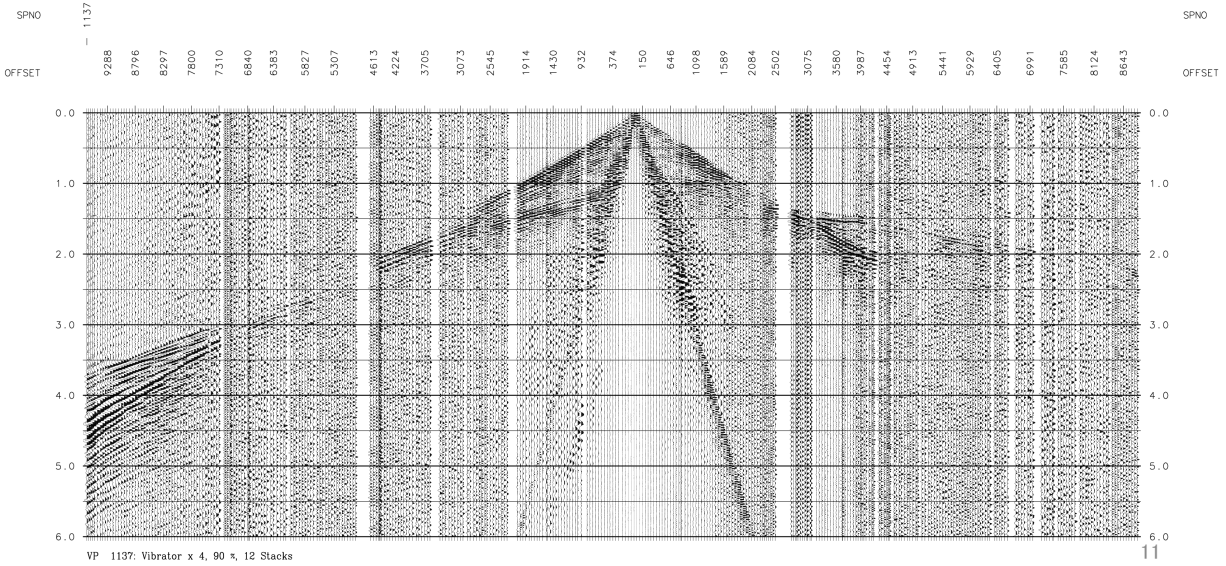
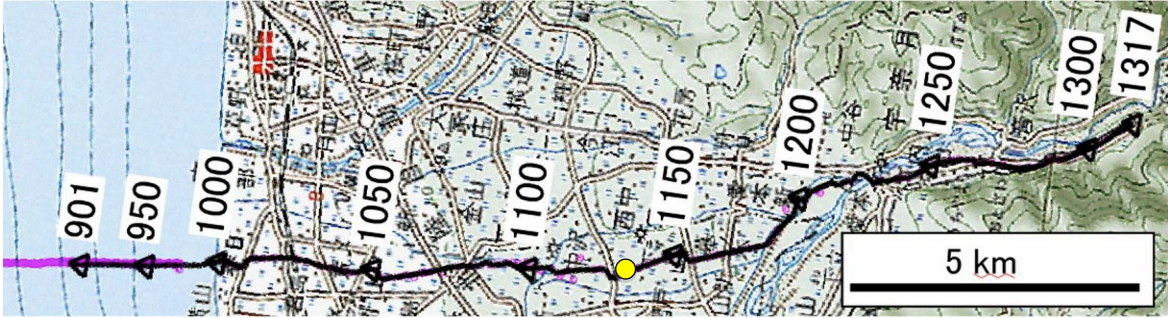
富山地域海陸統合反射法調査

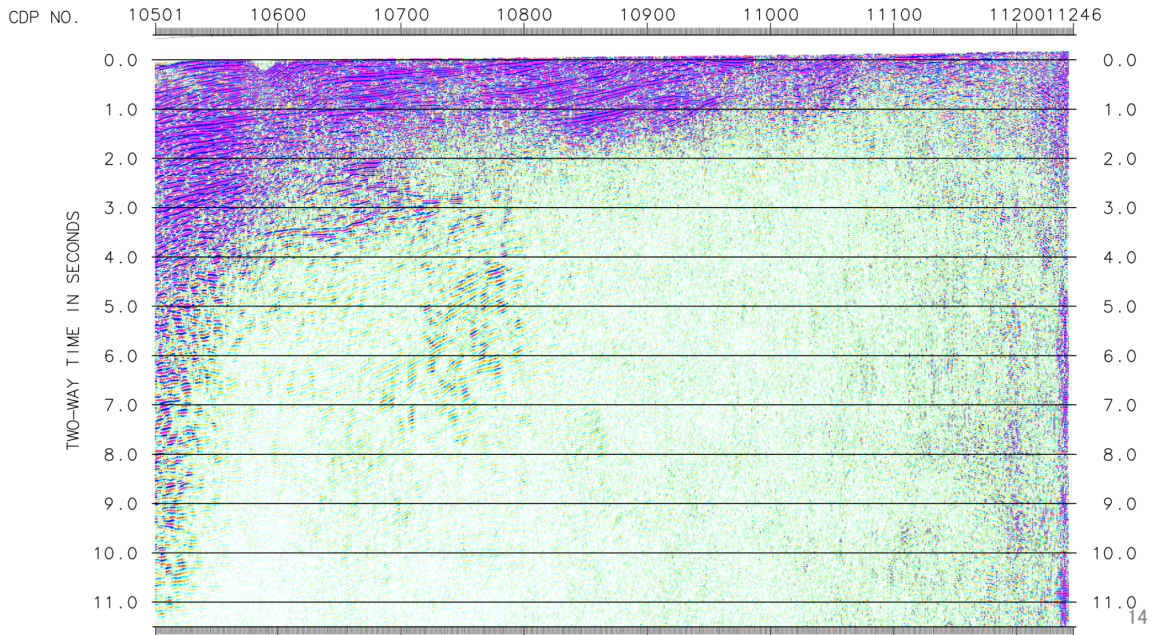
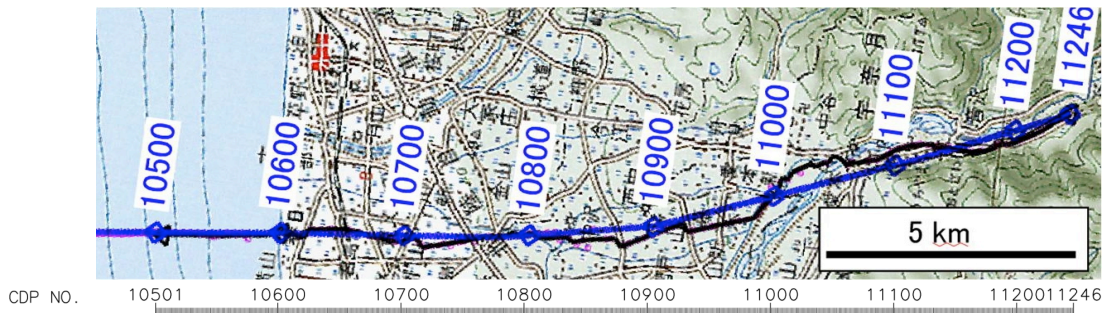
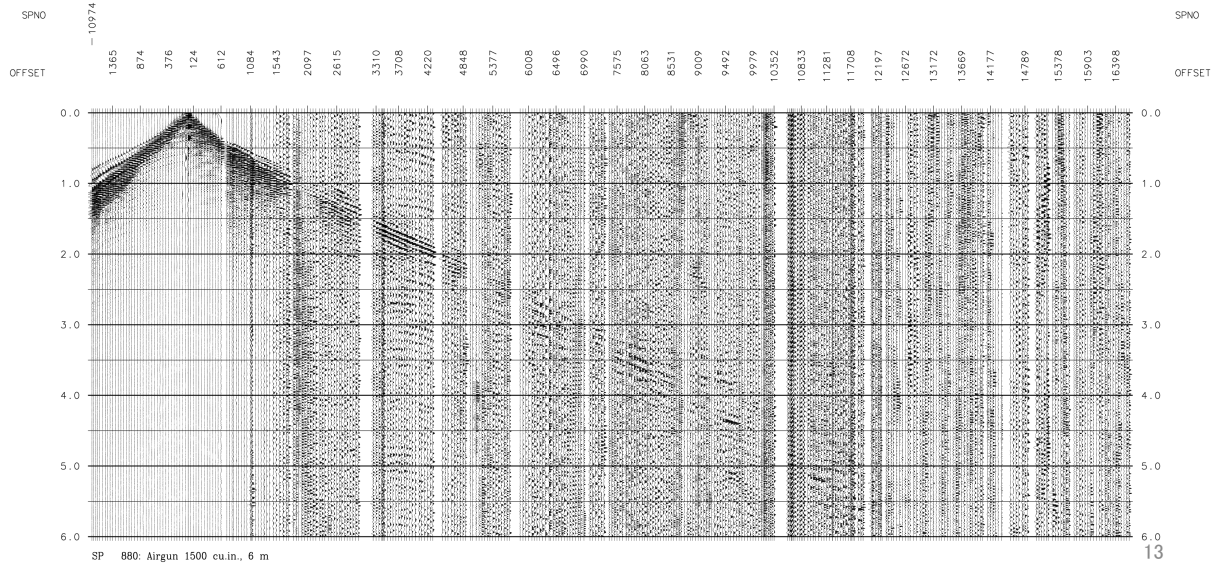
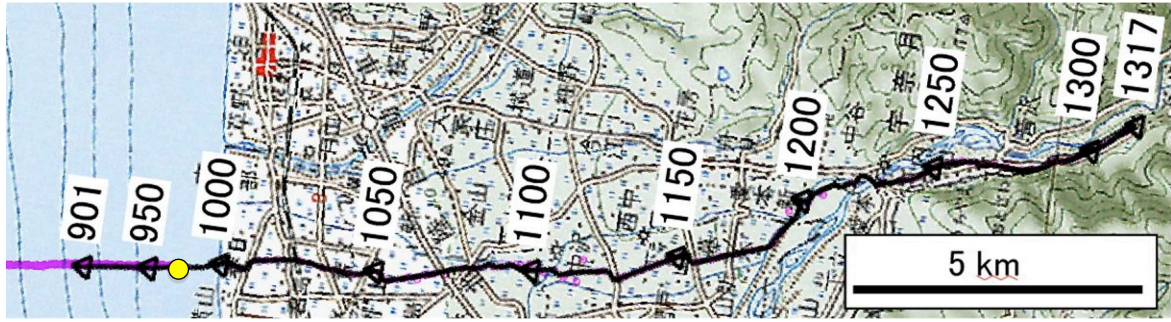
データ取得仕様

発振系			
エアガン(通常)	3020 cu.in. / 2000 psi ガン深度 8 m 発震点間隔 25 m		552 点
エアガン(沿岸)	1500 cu.in. / 2000 psi ガン深度 6 m 発震点間隔 25 m		27 点
パイプレータ	6-40 Hz / 20 sec 12 sweeps (標準) 発震点間隔 150 m (標準)		100 点
受振系			
海域	海底敷設型受振システム SeaRay (25 m 間隔)		100 ch (2.5 km)
陸域	独立型受振システム MS2000 (50 m 間隔)		317 ch (15 km)
展開	固定展開		
データ収録			
サンプリング	4 ms	記録長	12 s









北陸沿岸域海上反射法調査

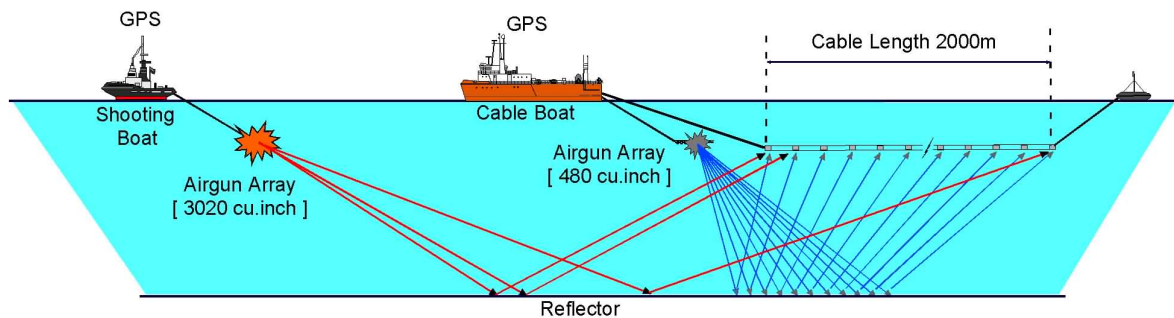
データ取得仕様

測線名	測線長	最大オフセット距離
T1	85 km	12 km
T2	115 km	6 km
H1	135 km	8 km
H2	55 km	8 km
N1	45 km	4 km
N2	35 km	4 km
I1	55 km	4 km
I2	55 km	4 km
I3	55 km	4 km
I4	80 km	4 km

発振系	
小型エアガン (観測船)	480 cu.in. / 2000 psi ガン深度 6 m 発震点間隔 50 m
大型エアガン (発震船)	3020 cu.in. / 2000 psi ガン深度 8 m 発震点間隔 50m
受振系	
ストリーマー ケーブル	ケーブル長 2 km 受振点間隔 12.5 m チャンネル数 156 ch
データ収録	
サンプリング	2 ms
記録長	10 s または 15 s

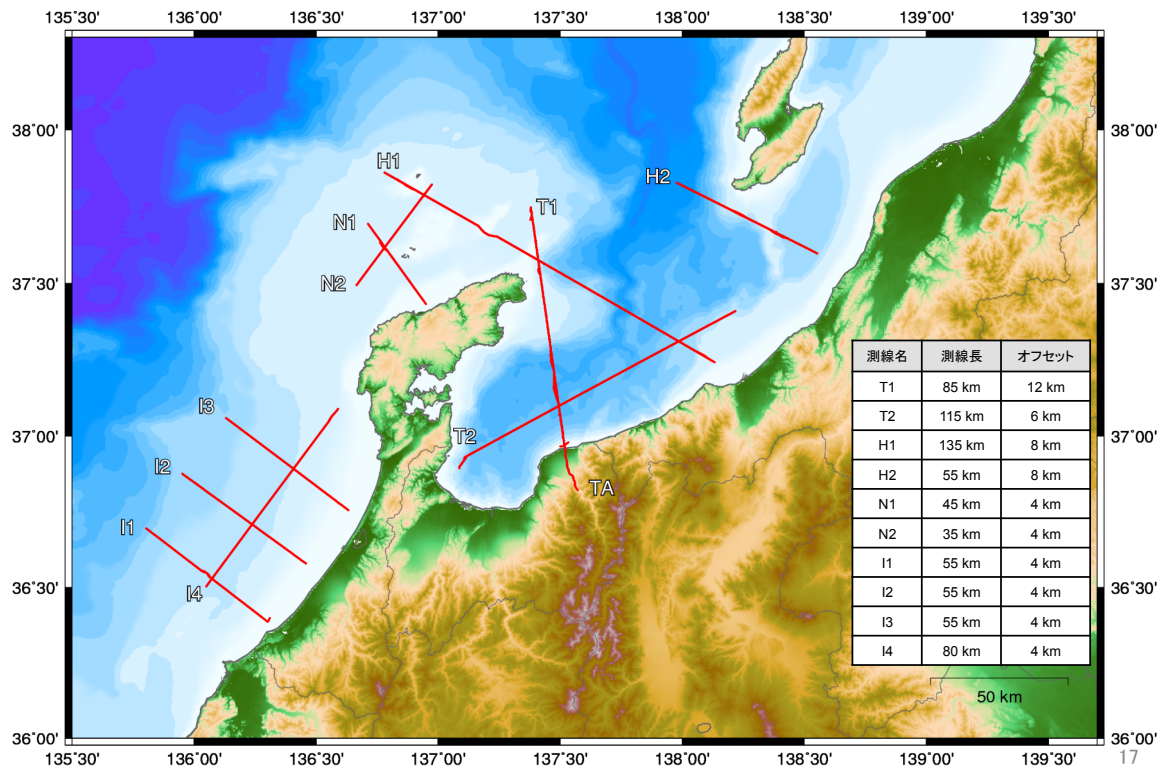
15

二船式データ取得



16

調査測線図



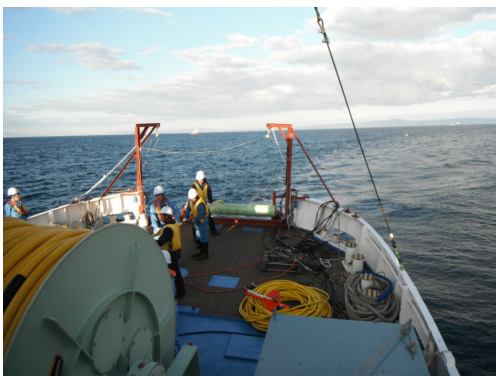
二船式海上反射法探査



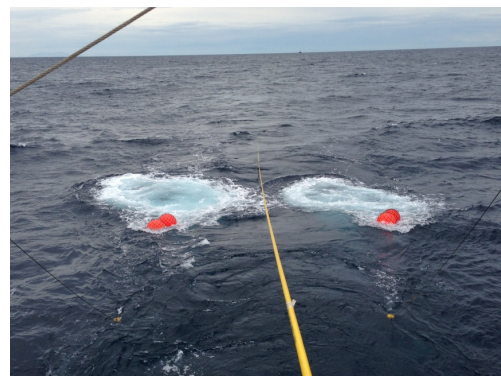
観測船（雄山丸）



発震船（第七海工丸）

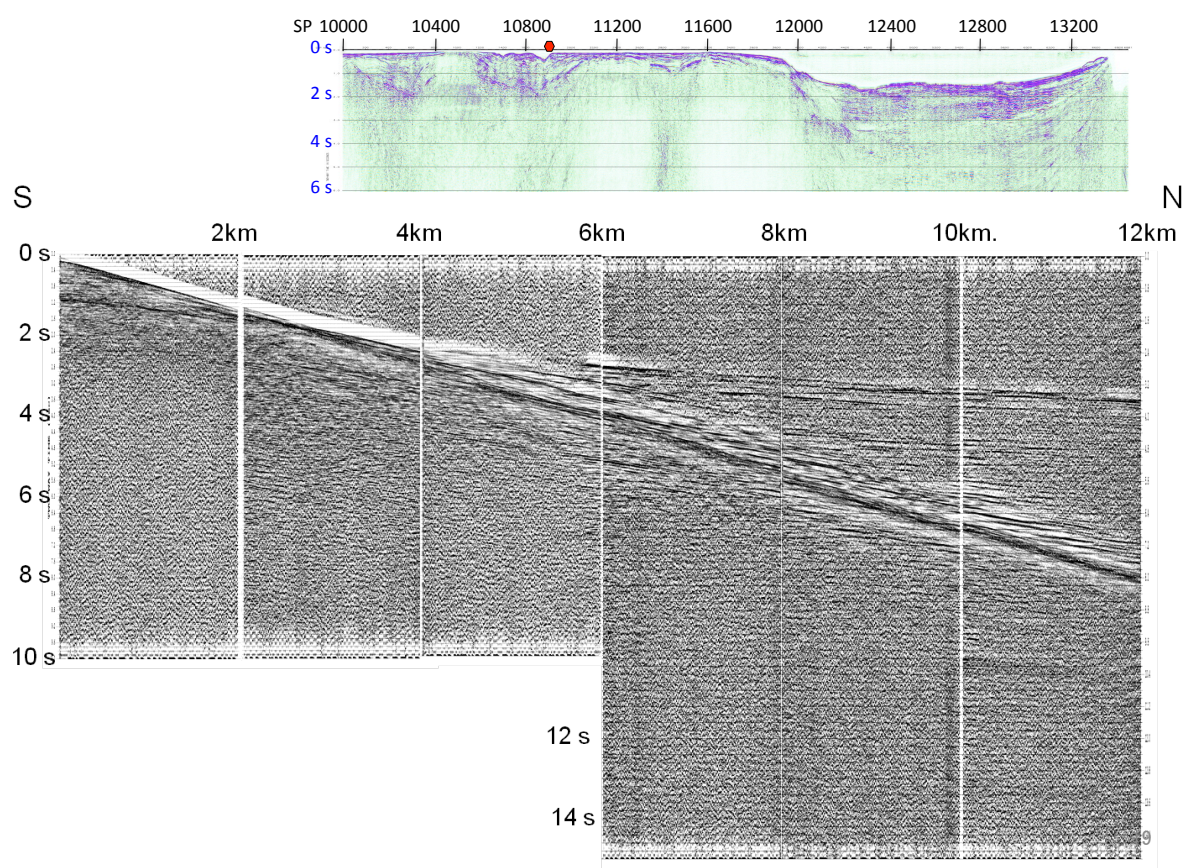


ストリーマケーブル降下作業

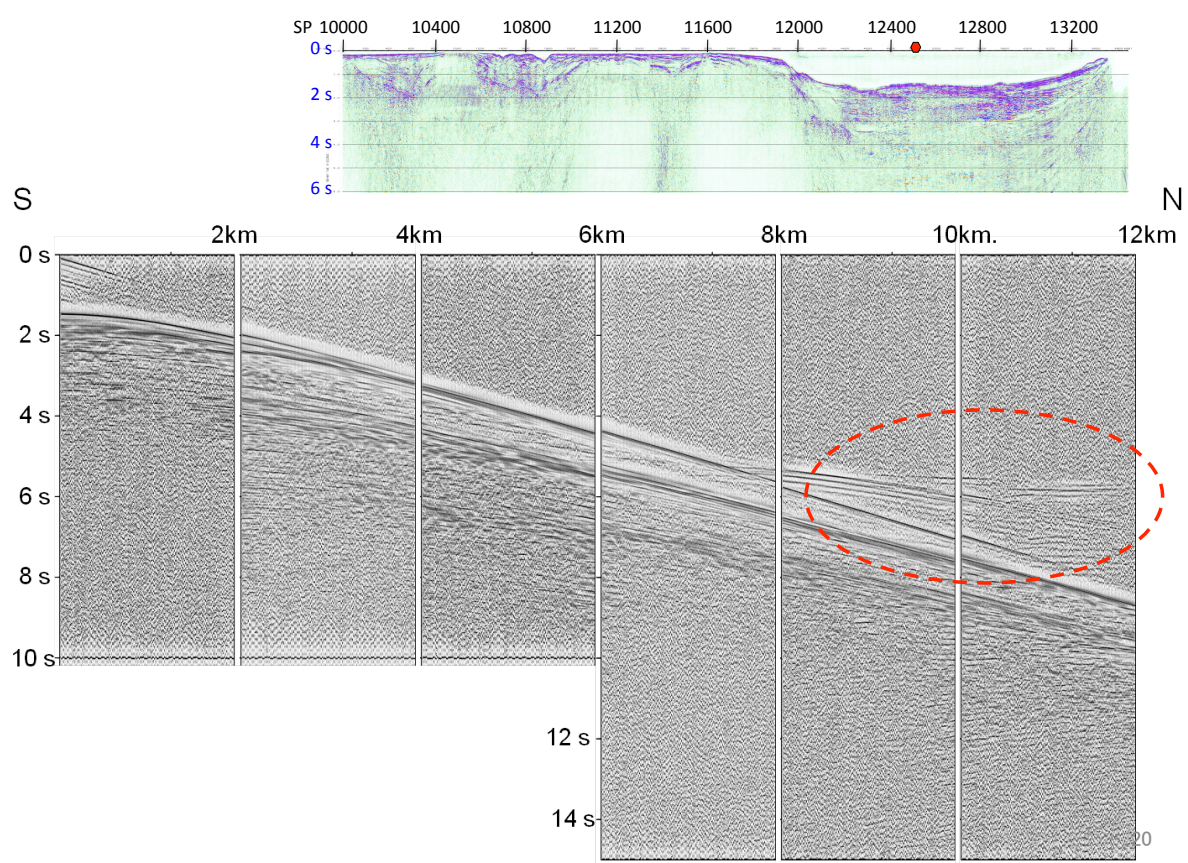


エアガン発震（480 cu.in.）

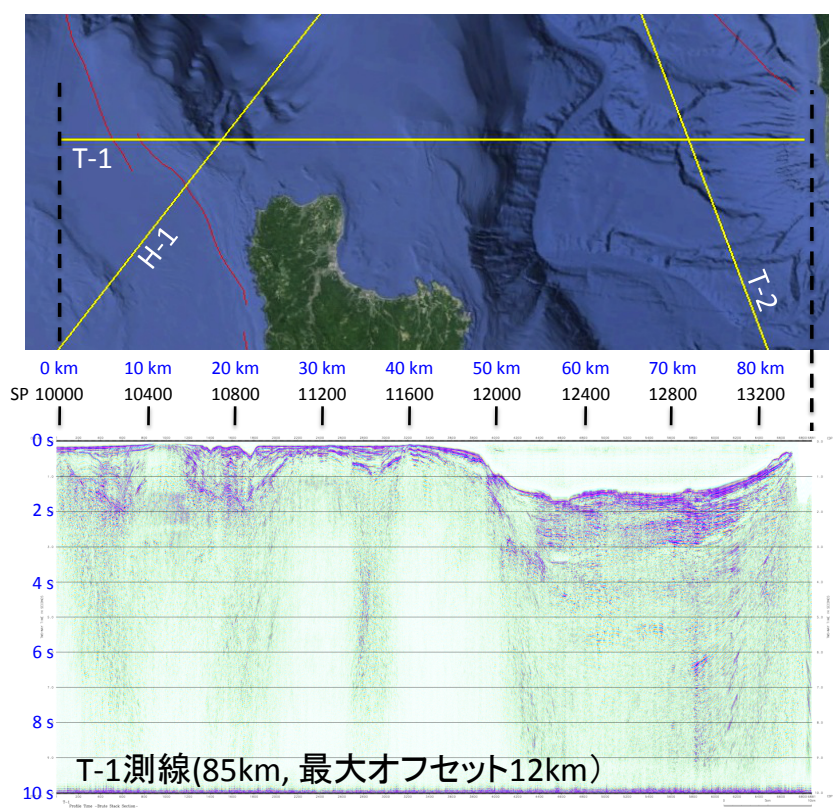
二船式発震記録例 (T1測線、SP10946)



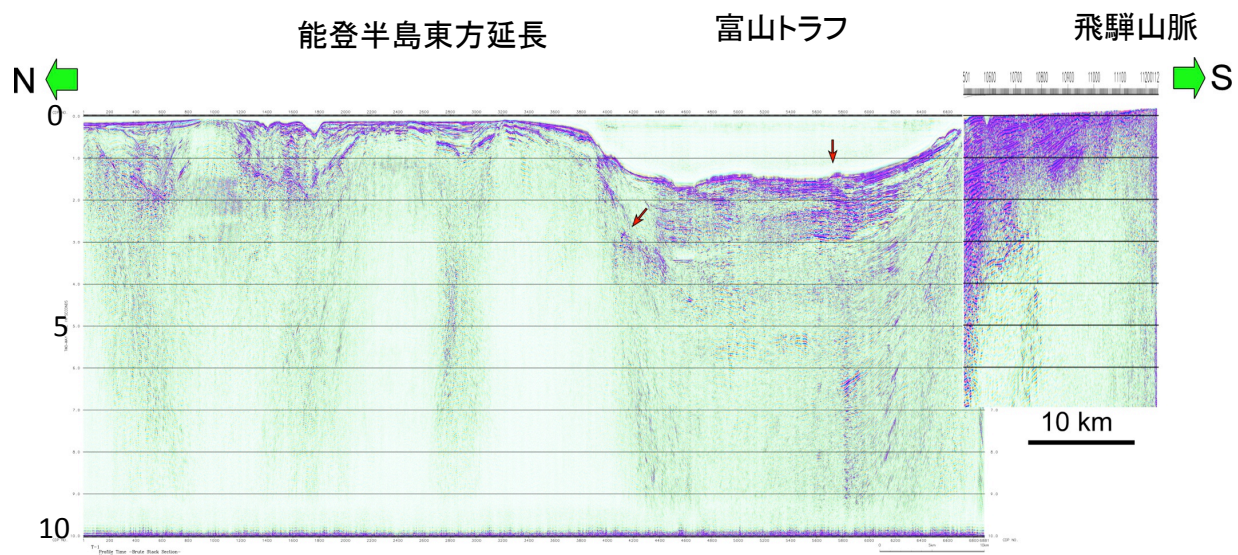
二船式発震記録例 (T1測線、SP12500)



重合断面図(船上処理)

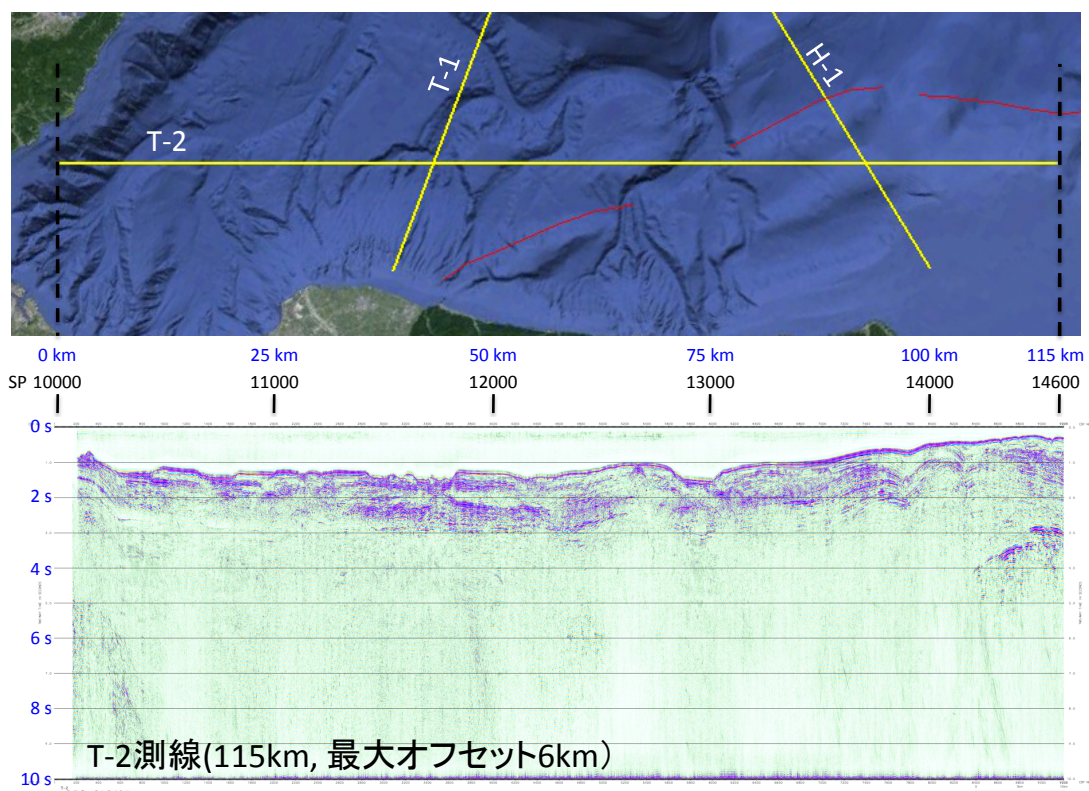


21



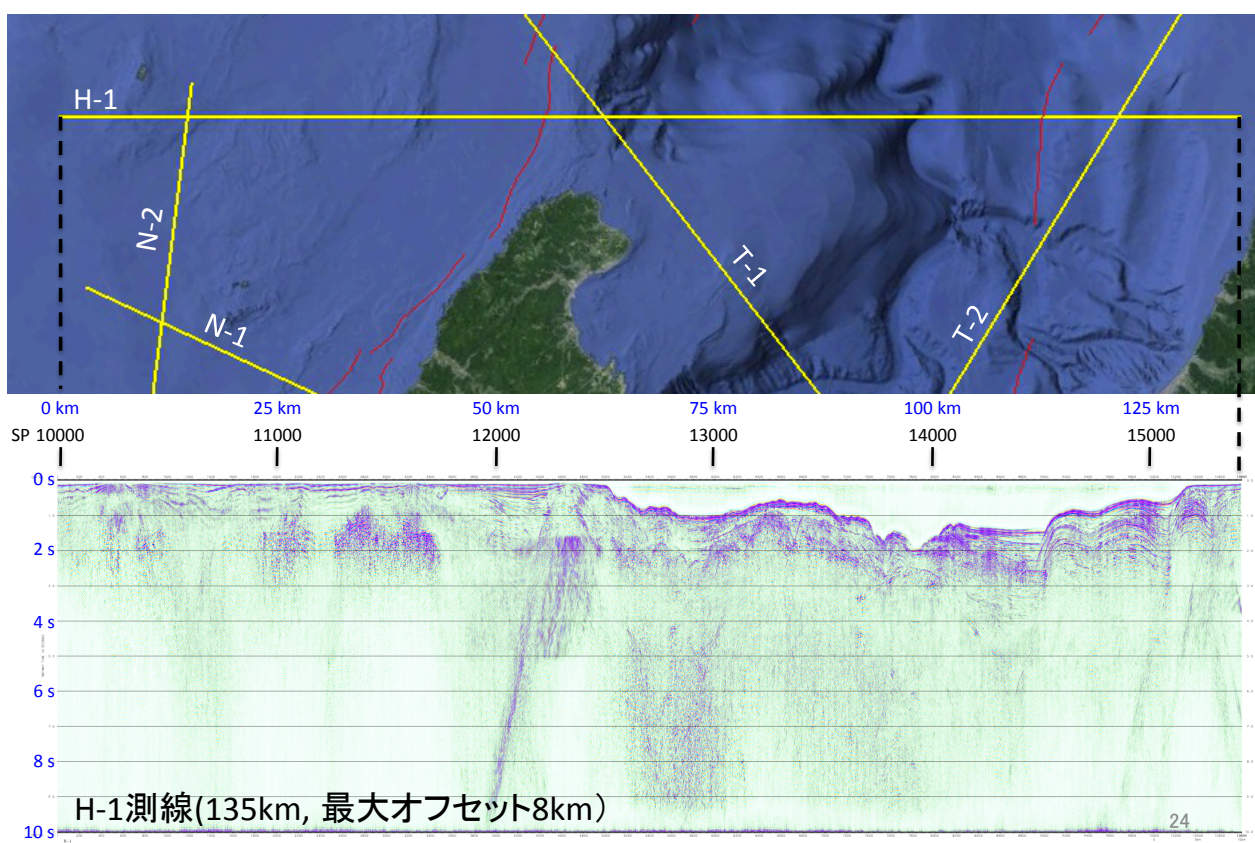
22

重合断面図(船上処理)



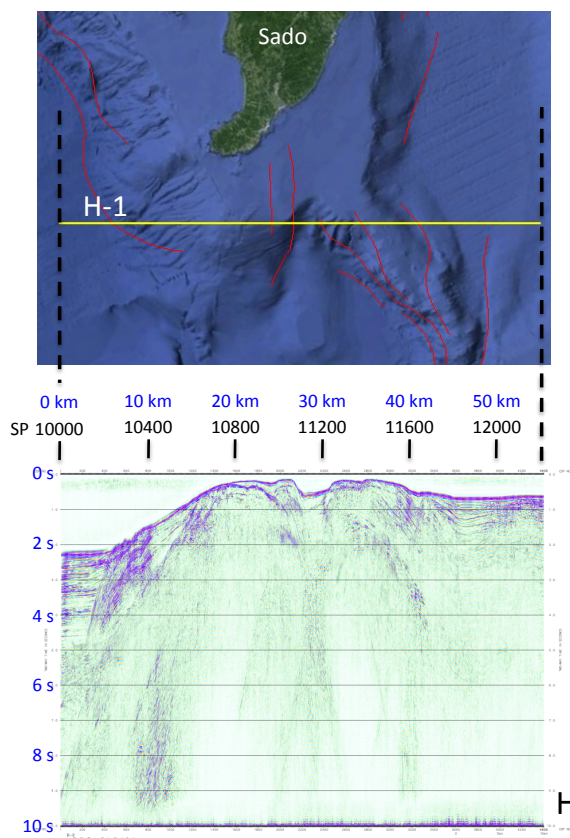
23

重合断面図(船上処理)



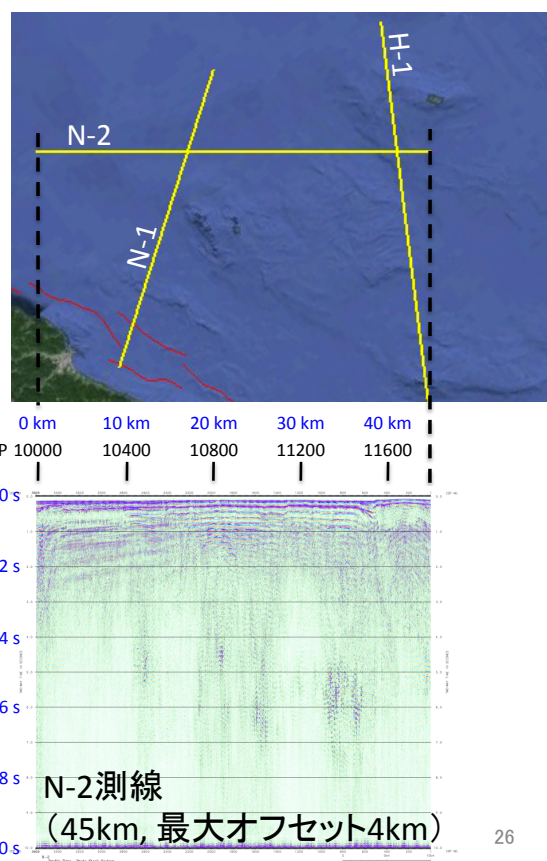
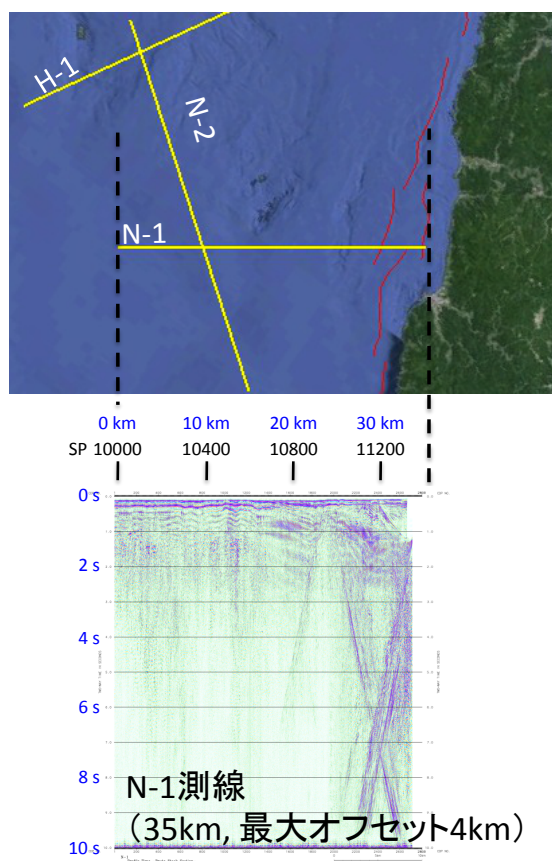
24

重合断面図(船上処理)



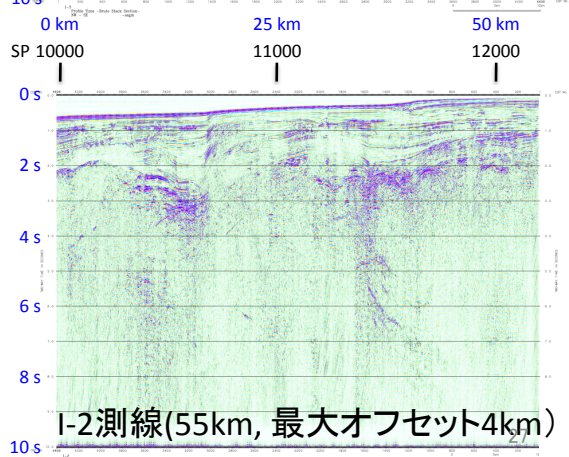
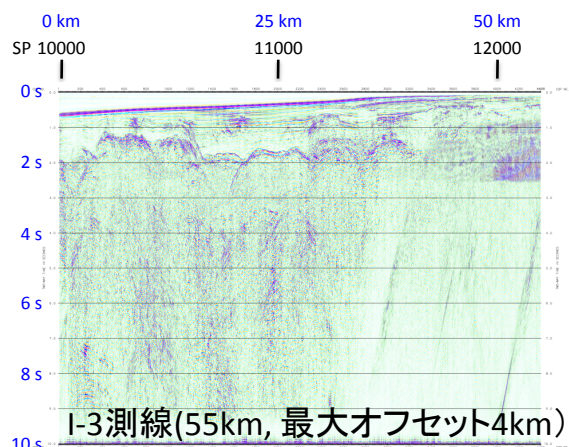
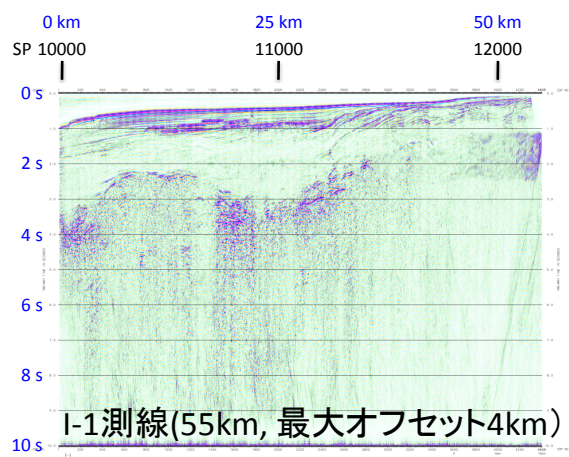
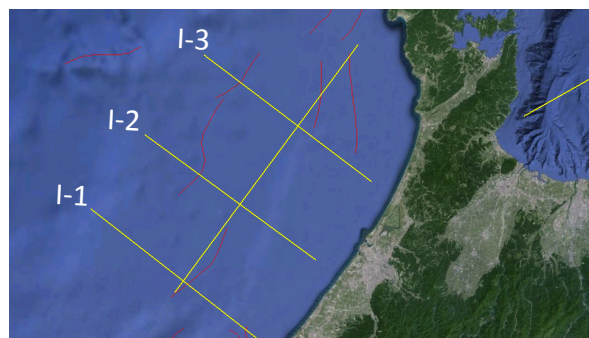
25

重合断面図(船上処理)

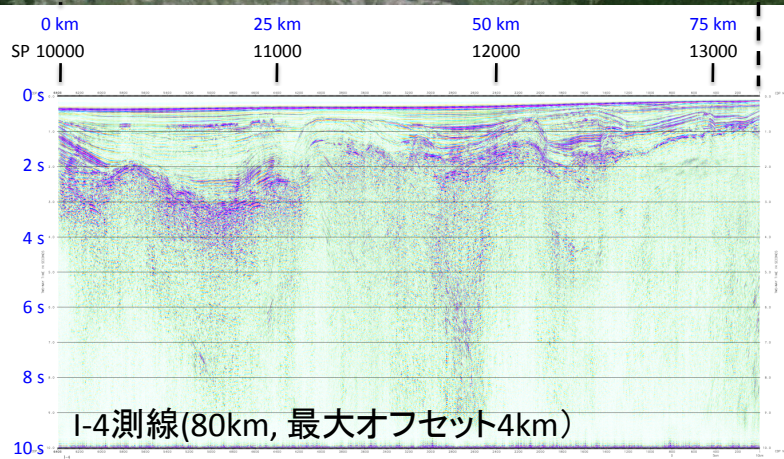


26

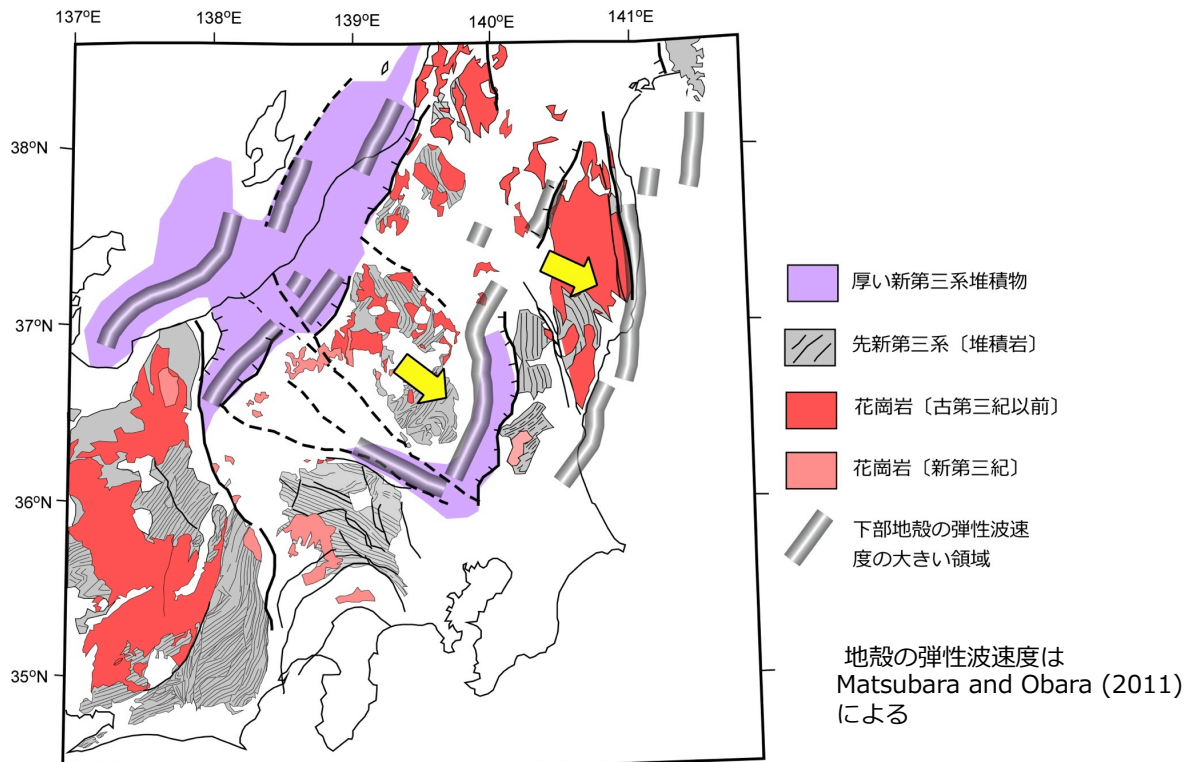
重合断面図(船上処理)



重合断面図(船上処理)



本州中央部の日本海拡大時のテクトニクス



29

背弧中絶リフトの模式図

